

# 行政視察報告書

(文責 栗津由紀夫)

## 1. 日時

令和4年10月31日(月) 13:30~16:30

## 2. 場所

徳島県 阿南市

## 3. 対応者

阿南市議会議員 産業建設委員会 委員長 幸坂 孝則様

阿南市議会事務局 局長 阿部 康彦 様

産業部 部長 橘 敬治様

産業部 野球のまち推進課 課長 田上 毅様

教育部 スポーツ振興課 課長 小西 誠一郎様



## 4. 視察目的

「野球のまち」推進事業について

## 5. 視察のねらい

2025年に滋賀県では国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会が開催されることが決定している。我が草津市においても、国スポで8競技、障スポで2競技が開催されるなど、数多くの競技会場地に決定し、現在（仮称）草津市立プールを始めとした施設整備が進んでいる。

そこで、大会終了後、これらスポーツ施設を有効利用するため、「野球のまち阿南」として、野球のまち推進課を設置し、野球と観光をセットにした「野球観光ツアー」の受け入れや「各種大会コンベンションの開催」、社会人や大学、甲子園出場チーム等の「合宿誘致」など官民・経済界が一体となって取り組み、野球というスポーツを主体としてまちづくりを進め、成功してきた阿南市の事例を今後の草津市の施策・事業提案の参考にする。

## 6. 視察概要

阿南市役所内で別添資料「スポーツツーリズム 野球のまち阿南推進事業」および「ティーボール教室について」に沿って、阿南市教育部スポーツ振興課課長 小西誠一郎様・阿南市産業部部長 橘敬治様・阿南市産業部野球のまち推進課課長 田上毅様の順で、当会派からの質問（下記記載）も踏まえて、取組みを説明いただいた。

・当会派からの質問事項

- ①野球に特化したまちづくりを始められようとした経緯について
- ②事前のマーケティングや情報収集の方法
- ③野球のまち推進課の取組（ハード事業とソフト事業）
- ④合宿や大会誘致のためのアプローチや支援策
- ⑤野球のまち推進のための市民啓発や企業の協賛
- ⑥取組を通じての社会経済効果
- ⑦競技者の育成と市民の健康づくり
- ⑧取組の今後の方向性と課題

その後、徳島県南部健康運動公園に場所を移し、JAアグリあなんスタジアム、陸上競技場、あなんアリーナ等の施設見学を行った。





## ■ 阿南市の状況・野球のまち阿南推進の経緯

・阿南市は、徳島県南東部に位置し、面積 279.25km<sup>2</sup>、総人口 67,673 人の四国最東端の地方自治体。「野球のまち阿南」の他にも世界に冠たるLEDの地場企業を有するまちとして「光のまち阿南」としてもアピールを行う。

・「野球のまち阿南」を目指した経緯は、阿南市前市長の岩浅嘉仁さんが平成 17 年 5 月長野県上田市で開催された全日本生涯野球大会を視察し、「野球は人が集まる」と確信したことに端を発する。以降、平成 19 年 2 月：「野球のまち阿南構想」発表、平成 19 年 5 月：JA アグリあなんスタジアム完成、平成 19 年 6 月：野球のまち阿南推進協議会設立、平成 22 年 4 月：全国初の「野球のまち推進課」を設置した。

阿南市は、地域経営戦略として、野球を通じて産業・観光の活性化とスポーツ振興を図り、スポーツツーリズムを推進していくことを決め、野球によるまちおこしを実践するとともに、全国に向けてPR活動を展開しています。

## ■ 野球のまち推進事業 具体的な取組

### ○ 集客・宿泊客の獲得に結びつく大会の開催

- ・ 西日本生涯還暦野球大会
- ・ 西日本古稀軟式野球大会
- ・ 少年野球全国大会
- ・ 西日本 500 歳野球大会

### ○ 合宿の誘致による宿泊客の獲得

- ・ 富山みらい学園未来高校
- ・ 京都大学
- ・ 北信越地区選抜出場校
- ・ 台湾・中国のプロ野球・中学・少年

### ○ 野球観光ツアーの開催による宿泊客の獲得

- ・令和4年度、3日開催 全国各地から8チームが参加（県外4チーム）
- ・ツアーの内容は、野球場と宿舎の確保、対戦チーム、審判・放送員の手配、交流会（阿波踊り）の開催 ・料金14,000円

#### ○集客に繋がるイベントの開催

- ・高校野球交流フェスティバル
- ・東京六大学野球オールスターゲーム
- ・プロ野球OBオールスターゲーム
- ・台湾フェスティバル（台湾社会人野球チームとの交流戦）
- ・ドリームベースボール（プロ野球名球会チーム）

#### ○ティーボール、女子野球の推進

#### ○審判員、放送記録員の育成（講習会の開催）

#### ○モンゴルとの野球交流事業の実施

#### ○その他

- ・60歳以上の女性で編成する野球のまち阿南施設応援団 ABO60結成
- ・おもてなしチームの結成や各種野球チームの接待
- ・身体障害者野球チームの対戦相手として協力

#### ■企業の応援

- ・サッポロビール株式会社とのまちづくり協定による協力
- ・県南菓子工業組合に属する4店舗が野球饅頭「球」を販売
- ・日垂化学工業株式会社によるLEDライトの提供

#### ■野球のまち推進事業の事業状況（令和元年度）

収入総額 1,435,629円

支出総額 38,090,879円

職員 5名

宿泊客 延4,542人

日帰り客 4,684人

経済効果 約1億2千万円

#### ■今後の目標 「野球をするなら阿南へ行こう」をキャッチフレーズに

- ・野球の聖地
- ・草野球の対象者は何人いるかわからないくらい多い
- ・全国の草野球の中心的存在にしたい

## 7. 所感

今回の視察では、徳島県の阿南市において、野球という特定のスポーツに特化し「野球のまち阿南」として取組みを行い、社会的・経済的効果を上げている事に感心した。

野球のまち推進事業が阿南市にもたらした社会経済効果として、JA アグリあなんスタジアムを始めとした地域資源の活用ならびに官民の協働という新しいまちづくり手法を定着させたことが挙げられる。

メディアを通じた積極的な情報発信により「野球のまち阿南」というポジティブなイメージが全国に発信され、その認知度が向上するとともに、市民の阿南市へのシビックプライドを高め、社会的ネットワークが形成・強化される様子が見てとれた。

近年のコロナ禍においては、集客や宿泊数など経済的効果は必ずしも大きいとはいえないが、野球のまち推進事業のようなイベント参加型スポーツツーリズムは、市のイメージの向上、シビックプライドの醸成、住民参加の促進などの効果を得やすい取組みであると感じた。

本市も 2025 年に控える国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に合わせて整備される草津市立プールを始めとした施設を大会後も有効活用するため、阿南市の野球に関する様々な取組みを参考にし、活かして参りたいと思います。

## 行政視察報告書

実施日時 令和4年11月1日（火）13時30分～15時05分

実施機関 徳島県徳島市役所

参加者（徳島市役所側）

議会事務局次長 鈴江 正 議会事務局主査 石川 弘樹

企画政策課長 上田 誠吾 企画政策課補佐 川口 博史

（敬称略）

（当方側）

会長 奥村 恭弘 副会長 杉江 昇 幹事長 土肥 浩資

政調会長 栗津 由紀夫

調査内容 徳島市のSDGsに関する取組みについて

- 目次
- （1）総合計画将来ビジョン
  - （2）徳島市が取組む意義と総合的取組み
  - （3）先駆的・先導的な取組み
  - （4）相乗効果（経済・社会・環境）
  - （5）徳島市SDGs未来都市実現協議会
  - （6）包括連携企業等との事業
  - （7）草津市民へのフィードバック

作成および文責 杉江 昇



## (1) 総合計画将来ビジョン

## ○稼働中の総合計画について

計画期間 令和3年4月～令和13年3月まで

実施計画は、約3年に1回のローリング

## ○将来ビジョン

**ワクワク実感！水都とくしま**

～本市ならではの魅力があふれ、誰もが「このまちが好き」と感じられるわくわくするまち～を目指します。

吉野川をはじめとする大小138の河川が市内を流れ、江戸時代には豊かな水資源とともに発展にしてきた。また、阿波踊りや四国遍路などの懐深い文化も引き継がれ市民の拠り所となっている。

一方で、人口減少が進み、激甚・頻発化する自然災害や生活全般に深刻な影響をもたらすコロナウィルスをはじめとするウィルス過など取り巻く環境は、予断を許さない。今までに蓄積してきた産業の再生や発展を期すこと。文化を最大限にアピールし、徳島市民と来訪者がともに喜ぶまちづくりを期す。徳島市民の憩いの場である「ひょうたん島」を開発しつつ、集住を進めて行く予定だ。

## (2) 徳島市が取り組む意義と統合的取組み (P6・7)

○世界のSDGs達成状況で、日本は、18位で18個の目標中、ジェンダー平等やパートナーシップをはじめ、5つの目標で「問題あり」評価されている。それであるならば、日本政府が描く地方都市によるSDGs推進の方策より、独自性の強い、総合計画の将来ビジョンに謳う「わくわく実感！水都とくしま」を強かに推進していくことになりました。「水都」「ダイバーシティ」「官民連携」をもとに、予算が少ない地方政府でも実現できる行政執行モデルを構築して行く。

また、今後出現してくるモデル事業は、SDGsの目標達成に寄与すべく、先駆的で実験的な取組みを多様な主体と手を取り合って積極的に推進される。

その意味は、成果を近隣の市町や県に留まらせず全国へ普及することで「SDGs実現に向けて、徳島市から日本全体に底上げをしていく。」と意気込んでいる。

統合的な取組みについては、3つの側面、①ダイバーシティと民間活力を原動力②人と人が繋がる「水都とくしま」③SDGsを自分ごと化する。…この3つを結び合わせて運用していく。

(3) 先駆的・先導的な取組み (P9・10・11・12)

○みんなでSDGsを実現する仕組みづくり

- ・ダイバーシティ…子どもの声を大切にする「**未来志向**」の取組み。  
データ主義に転換し、数値が見える化するとともに、実施している実験(節水など)  
動画を作成し、地域に配布している。
- ・ダイバーシティ…女性の視点や発想をSDGsに活かす。  
これまでの取組みとして、ジェンダーギャップの解消や増々女性が活躍する場を創造していく。また、全国2例めとなる多様な家族形態を応援する「ファミリーシップ制度」を導入。さらに、女性や若手経営者・企業家の育成支援の実証実験を進めている。  
また、企業等と連携し、ダイバーシティ社会実現に資する事業を企画・実施し、働く女性の後押しや自己実現を更に支援する。
- ・官民連携…「持続可能な『ひょうたん島周遊事業』」の検討。  
ヤマハ発動機(株)と連携し、化石燃料を使う内燃機関から電動化に変更し、脱炭素化を図った。また、チケットの電子化や音声ガイドの導入を図り魅力の向上を図る。

(4) 相乗効果 (P13)

○経済・社会・環境の3側面

- ・ダイバーシティが深化していくと移住者が増える。  
地域の担い手が増える。(社会面)

経済成長と雇用の拡大。イベントなどの活発化による余暇の過ごし方の多様化。人が増えると人の流れも活発化し、中心市街地の賑わいの創出に繋がる。(経済面) まちづくりに参加、参画する人が拡大されSDGsについてのワークショップの盛況を鑑み、市民自発的な省エネ活動が展開され環境負荷の低減や気候変動や脱炭素に寄与される。(環境面)



## (5) 徳島市SDGs未来都市実現協議会(P14・15)

○当協議会は、徳島市SDGs未来都市に関する各種事業の総合調整や、SDGs達成に向けた活動に対する助言などをする。  
協議会全体としては、「みらい部会」「ジェンダー部会」「パートナーシップ部会」の3部会に分かれ、コンクールやネットワーク会議の開催やシンポジウムなどの開催等、様々な事業を展開する基礎となっており、いわゆる「SDGs推進の肝」といえる。全体の指揮は「みらい部会」に所属される大学教授が執り、学術研究に基づいた指揮系統となっている。

## (6) 包括連携企業等との事業(P16・17・18・20・21)

○P16に示すように25の企業と包括連携を組み、プラットフォームを形成している。近隣市では比べようのない多さだ。特記すべきは(P21)SDGs出張授業で、学校から要請があり次第、包括連携企業社員による出張授業を実施していて、令和3年度は、12企業15講座の実績がある。

## (7) 草津市民へのフィードバック

○近い未来も、遠い未来に向かって持続可能で幸せを感じる社会を構築していかなければならない。逆に言うと、世界中が今のような暮らしを続けていくと、持続できないということになる。

私たちが暮らす日本や滋賀県草津市では、令和4年度に「気候非常事態宣言」を市長と議会と一緒に宣言しました。当年度は、準備年度でもあり、令和5年から活発に活動していくことになる。地震や巨大台風の発生頻度が高まってきている。第3次産業革命以来、自然が自らの営み以上に温暖化のスピードが早くなっていて、このまま同じような暮らしをしていると、われわれの子孫が生活できなくなる可能性が非常に高確率で発生する。

私たちは、これから、市民と議会、行政が一団となってこの未来の難局を今から改善していかななくてはならない。

今回、徳島市での研修でSDGsについて活動手法を習得したが、やはり官民学が一団となって推進されている。来年の10月辺りから助走期間を終え、本格的に気候非常事態に対応すべく活動が本格化する。市民の皆さんには、子孫の幸せを胸に共に一緒に活動いたしたく、2030年には一定の目途を立て、2050年には、人類全てが安堵できる状態にすべく「ともに明日への歩みを進めましょう。」

## 行政視察報告

(文責 土肥浩資)

### 1. 日時

令和4年11月2日(水)10:00~11:30

### 2. 場所

岡山県 倉敷市 あちてらす倉敷

### 3. 対応者

倉敷市役所まちづくり部市街地開発課 課長 矢吹 文宏 様

### 4. 視察目的

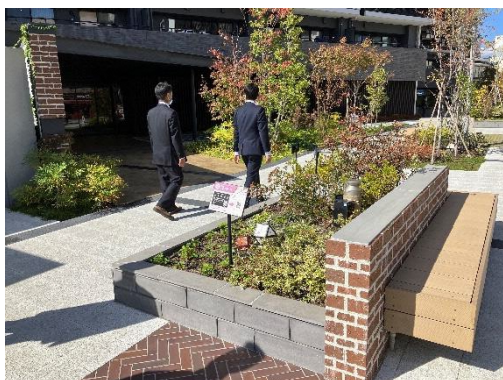
多機能拠点「あちてらす倉敷」の賑わい創出効果等について

### 5. 視察のねらい

令和3年10月、市街地再開発事業として、市有地・民有地の一帯を整備することにより、商業施設やホテル、マンション、公共施設、市営駐車場などの様々な都市機能を備えた「あちてらす倉敷」が竣工された。

新たな拠点整備は市内経済の起爆剤として賑わいを創出し、回遊が促進されることにより、その経済効果は市街地全域に波及するものと考えられる。

よって、同取組みについて調査し、草津市において将来的に実施する駅前再開発事業の先進事例として参考にしたいと、視察を実施した。



## 6. 視察概要

「あちてらす倉敷」店舗棟 2 階の公益施設内にて別添資料①「倉敷市阿知 3 丁目東地区 第一種市街地再開発事業～官民連携の取り組み～」および別添資料②「あちてらす倉敷」に沿って倉敷市役所まちづくり部市街地開発課 課長の矢吹文宏様より取り組み内容をご説明いただいた。

### ■倉敷市の駅前(別添資料①3 ページ参照)

位置図の通り、「あちてらす倉敷」は駅北西部の「倉敷みらい公園」や「アリオ倉敷」「三井 アウトレットパーク倉敷」などの憩い・賑わいエリアと駅南東部に位置する県内屈指の観光 エリアである美観地区を結ぶ地点にある。

### ■あちてらす倉敷を整備した目的

あちてらす倉敷が施行された地区は、駅に近接する好立地にもかかわらず、地区内は幅員 4m 未満の道路で都市基盤が不十分であり、木造老朽住宅が密集するなど防災面で課題を抱えていた。過去には複数の火災が発生しており、地区内の防災性強化が喫緊の課題となっていた。

また、恵まれた立地環境にあるにもかかわらず、土地の合理的かつ健全な高度利用が図られてい

なかったことから、市街地再開発事業を施行し、都心部にふさわしい高度、多様化した商業機能の集積と定住人口増加に寄与する都市型住宅を配置し、併せて公共施設の整備を行うことで、JR倉敷駅周辺の中心市街地活性化につながる賑わいを形成し、倉敷市の玄関口にふさわしい街づくりを行なう目的で施行された。



### ■今後の課題

#### 1)賑わいの定着

- ・協議会員も 20 者まで増加し、情報発信やイベントなど各部会に分かれて活動が出来るようになったので、もっとPRやイベントを増やし、認知度を高めていきたい。
- ・来訪者向けや、近隣住民、オフィスワーカー向けのイベントなど、多種多様なイベントを実施することにより賑わいを定着させたい。

#### 2)回遊性の促進

- ・「ロコロコ・マルシェ」のような倉敷の特産品を扱うイベントを増やし、観光客にPRすることで、美観地区からも人が訪れるようにしたい。
- ・駅北でのイベントや商店街の朝市にあわせてイベントを開催することで、人が行き交うようにしたい。



## 7. 所感

都市規模は違えど、駅周辺で賑わいを定着させつつ回遊性を促進したいという考えは、草津市と同様であり、その実現に向けた手法について大いに参考となった。

現地を視察し、近接する施設に宿泊したからこそ感じたことだが、あちてらす倉敷の整備によって単に大型商業施設(北西部)と美観地区(南東部)を結びつけるだけでなく、その間にある商店街も回遊性促進の恩恵を受けている様子であった。

JR草津駅東口に目を向けると、エルティ・近鉄百貨店・ニワタスに加えてクロスアベニューやキラリエといった賑わい拠点と位置づけられた施設がある。また、西口にはポストンプラザやクサツエストピアホテル、エースクエア等の宿泊施設や商業施設が立ち並んでいる。また、それらをつなげるような形で de 愛ひろばがあり、イベントスペースや憩いの広場、飲食店が設けられている。

コロナ禍という状況を度外視すれば、それぞれの集客努力により、それなりの賑わいを見せてはいるものの、点と点を結ぶ回遊力は十分に発揮できていないのではないかと考える。

今後、草津市立まちづくりセンター跡地や草津署跡地という空地をどのように活用していくべきかを考え、議論を進めていく上で、今回視察したあちてらす倉敷には、草津市をもっと発展させるためのヒントが大いにあったと感じ、今後の議会活動に活かしていく必要性を認識した。